



同好会ひろば

第290号
R4. 3. 10
No.5

1年間の活動を振り返って

今年度は、「社会の変化に適応した同好会活動」をテーマに、コロナ禍の中においても、会員の皆様が「これまでよりもさらに授業力が高まった」「人とのつながりが広がった」と思えるような同好会活動を進めていきたいと考えました。そのためには、「社会科の授業力を高めること」と「仲間の輪を広げること」が重要であると考え、社会科同好会が長年大切にしてきた、立場や経験の違う様々な世代の会員のつながりを基盤として、社会情勢を注視しながら、諸活動を進めてきました。

<研究活動を振り返って>

今年度も、全中社研と同様の研究主題「人間の生き方を問い続ける社会科学習」を研究テーマとして設定しました。そのために、子どもが多様化する社会を捉えることができる「教材化の工夫」と、人間の生き方を問い続けることができる「学習段階の工夫」の2点を重視して研究を進めました。

今後は、小・中学校ともに、学習指導要領にのっとったさらなる実践研究の推進・蓄積に力を入れ、併せて今日的な教育課題への対応として社会科ではどのような実践ができるのかを考えていく必要があると考えます。

<研修活動を振り返って>

全体会では、一堂に対面で会することはできませんでしたが、オンライン会議システムで開催し、会員同士が集う場を設定しました。同好会長の講話や、社会科部会長の講演を通して、社会科同好会の在り方のみならず、社会人としての心構え等も確かなものにすることができました。

授業づくり講座や授業力アップ研修グループなどでは、若手会員のニーズを把握したことで、ニーズに沿った活動で充実した研修を行うことができ、さらに若手会員の成長が見られるようになったことや、会員同士のつながりを広げることができたと考えます。

ステップアップ研修では、指導者との1対1の研修を通して、授業実践に対する意欲が向上したり、指導者との強いつながりを築いたりすることができました。

会員の皆様が、それぞれの立場で社会科教師としての力量を向上させることができるよう、事務局員12名で同好会活動を推進してまいりました。至らない点も数多くあったとは思いますが、1年間、お支えいただいたことにこの場を借りて深く感謝申し上げます。

(名古屋市社会科同好会事務局長 丸の内中学校 西脇 佑)

【第290号 紙面】

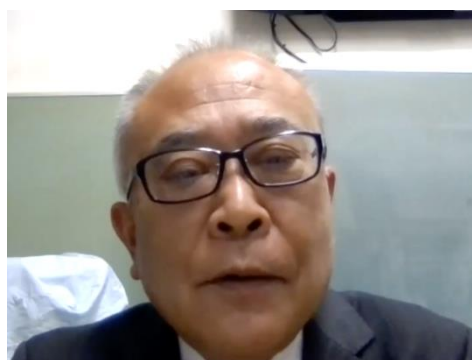
| | | |
|------------------------|-------|---------|
| 1年間の活動を振り返って | | (p1) |
| 2月全体会 | | (p2・p3) |
| 小・中学校合同部会研究発表会 | | (p4) |
| ステップアップ全体会・授業力アップ研修全体会 | | (p4) |
| 授業づくり講座 | | (p5) |
| 『日々雑感』八事小学校 古橋 大悟先生 | | (p6) |

2月全体会

2月10日(木)、オンライン会議システム「Zoom(ズーム)」を用いた社会科同好会全体会を行いました。社会科同好会副会長の渡辺範人先生、名古屋市立小中学校長会社会科部会長の三浦友久先生、社会科研究会委員長の浅野進先生にご挨拶・ご講話をいただきました。

<社会科同好会副会長 桜丘中学校長 渡辺 範人 先生>

今年11月に迫った全中社研の歴史を少し振り返ります。名古屋では今まで6回の全国大会を開催してきました。名古屋で最初に社会科の全国大会を行ったのは、昭和62年の全中社研です。今から35年前です。それ以後、中学校と小学校が交互に開催してきた歴史があります。いずれの大会でも社会科同好会の良さである小中の垣根を越えた共同研究が生きた全国大会となりました。同好会に所属する社会科教師が切磋琢磨し、研究してきた成果を全国の社会科の仲間に発信して、全国の社会科を愛する仲間に刺激と影響を与えてきました。



全中社研で言えば、昭和62年が名古屋での最初の大会ですが、先輩たちは「人間の生き方を問い続ける社会科学習」を研究テーマに掲げました。全中社研は、今回4度目の大会になりますが、この研究テーマを一貫して掲げています。このテーマを掲げている理由は、どの時代においても、確固とした考え方で社会を見ることを通して、自らに問い掛け、問い続けることで人間の生き方と正対できる生徒の育成が必要と考えてきたからです。サブテーマについては次のような変遷があります。最初は「四つの観点から迫る授業の創造」でした。平成7年には「共生を志向する社会へのアプローチ」。3回目は「共創共生へのキーワード」。そして今大会では、「多様化する社会を生き抜く生徒を育てる授業の追究」です。

私は平成7年の全中社研で、公開授業を城山中学校の武道場で振甫中学校の生徒を連れて行いました。共生というその当時一般的でなかった言葉をサブテーマに掲げ、全国大会を行いました。その刺激的で、まだ世の中で一般的でなかった言葉(大会理論)に、全国の社会科の仲間が緊張感をもって、耳を傾けていた記憶があります。今年11月に行う大会ではサブテーマに「多様化する社会」という言葉を用います。昨年の東京オリンピックでも多様性が大きなテーマとなりましたが、これからの時代を考える上で多様性、多様化する社会は避けては通れないと考えた訳です。

今年11月に迫った全中社研名古屋大会で、これまでの大会と異なる点があります。一点目は大会を2日開催から1日開催としたことです。二点目は、大会の会場を「ウインクあいち」一つにしたことです。三点目は記念講演をなくし、開閉会行事を縮小したことです。四点目は公開授業という形態を取らず、事前に授業の様子を撮影し、単元全体をどのように組み立て展開していったかが分かるように授業の録画映像を交えながら、大会当日に流すという手法を取ることです。コロナ禍における全国大会の在り方を模索した結果を大会当日に提案します。名古屋の研究の成果を全国に発信する手立てとして最善の方法を取るつもりです。大会当日は現地に直接足を運んでいただき、全国の社会科の仲間と交流を図っていただけたら幸いです。またオンデマンドの方式も取る予定ですので、小学校中学校1校1名の大会参加もしくはオンデマンドでの視聴協力をお願いします。名古屋市社会科同好会の底力を改めて全国に発信したいと考えています。

<名古屋市立小中学校校長会社会科部会長 栄小学校長 三浦 友久 先生>

平成4年の推進部員から始まって事務局、役員、校長会の社会科部会の役員を経て、今部会長をしています。さほど社会科という教科に燃えていなかった私がどうしてこのようにやってきたのかと考えましたが、私は「お前はできないのか」と言われるのが嫌だったのです。ちっぽけなプライドで、これが良かったかどうか分かりませんが、今となっては自分を強く、自信をもたせてくれた社会科には大変感謝をしています。

今でも記憶している先輩の一言を紹介します。

「子どもに社会の時間だけ考えろ考えろって言ったって無理だぞ。

国語や算数でも考える時間を仕掛けなければ、子どもは考えるようにはならない」「もうしょうがないな、もう1回見たらで、正月2日に直した論文を持って来い」「(教務の時に)先生たちはお前の必死に働く後ろ姿を見て、一生懸命やろうとか頑張ろう、助けてやろうとか思うんだ」

今こうして部会長として話しているのは、先輩方のお陰なのです。

授業力について話をします。自分で努力ができることは何でしょう。まず子どもが楽しいと思うことが大切ですね。分かりやすい授業をする、授業力を上げる、このことが必要なことは皆さん分かっていることです。じゃあどうしたらいいのか私なりに思っていることを話します。

一つ目は自分の授業を見もらうことです。授業を見もらって、「自分ならこうしたよ」とか「こうした方が良かったと思うよ」と、いろいろな視点から意見をもらうのは、自分の授業を見直すきっかけにもなり、自分にとって財産にもなります。

二つ目は「他人の授業を見ること」です。今の同好会会長、明倫小学校の尾本先生の授業を30年以上も前に見た時のことです。子どもたちが相互指名しながら自分たちで授業を進めていく知的好奇心に満ちあふれた授業に衝撃を受けました。その後、尾本先生の手法を自分の実践にも取り入れ、「自他の考えの交流」という観点で、体験記録で賞をいただいたり、今の栄小学校の努力点のテーマ「対話を通して学びを深める子どもの育成」につなげたりしています。

三つ目は「まとめること」です。簡単に言うと応募論文を書きなさいということです。賞を取るか取らないかという問題ではありません。社会科の授業実践を行う際に、理想と現実の大きな乖離があるのです。これを埋めるべく工夫をしたり、手立てを構築したりすることを繰り返すことで、いかに理想とする子どもに近づけるか、苦しい中でも努力をしながら取り組んでいく、そこには教員としてプロとしての姿があるのではないかと思います。少しでも皆さんの心に響く部分があれば大変うれしく思います。



<名古屋市社会科研究会委員長 浅野 進 先生>

今年度は、コロナ禍ということでオンラインでの会が中心でした。同好会の原点である「授業力の向上」や「人とのつながりづくり」において、直接集まることができないというのは、難しい面もあるかと思いますが、現場に合った方法を工夫して今年度の活動ができたと感じています。この状況はまだしばらく続きそうですが、一人一人の会員が知恵を出し合って現場に合った方法で同好会活動に関わっていただければと思います。



小・中学校合同部会研究発表会

1月14日(金)、小・中学校合同部会研究発表会を行いました。今年度は、令和4年度に開催される全中社研名古屋大会の理論を踏まえ、「人間の生き方を問い続ける社会科学習」を研究主題として、「教材化の工夫」と「学習段階の工夫」に焦点を当てた研究を進めてきました。小学校・中学校の各分野が1年間の実践の発表を通して、実践の成果と課題を共有しました。



【小・中学校合同部会研究発表会の様子】

<ご指導・ご助言> 名古屋市社会科研究会委員長 滝ノ水小学校 浅野 進先生

今年の実践の骨組みは、教材化の工夫、学習段階の工夫の二点であり、どの分野も魅力がある実践ができていた。教材化の要件として「多様化する社会とつながる」「価値観が揺さぶられ追究意欲が持続する」「課題を追究する中で、人々の営みが見える」の三つを取り上げていた。「多様化する社会とつながる教材」については、様々なニーズなどを取り上げながらできていた。一方で、「価値観が揺さぶられる教材」については、十分に意識できていなかった。葛藤する場面がなかったり、価値観を揺さぶる場面がなかったりした実践もあった。三つの要件をすべて満たすことは難しいが、そうすることで子どもたちの意欲が持続できるとよい。「人々の営みが見える教材」については、様々な人との出会いを実践の中で仕組んでいた。成果と課題をみると、十分に今後の取組を考えることができなかつたという分析がある。取り上げた人との関わり方、つながり方について振り返るとよい。教材の中で取り上げた人との双方向のやりとりができて、その人たちの取組の思いや願いに共感することで、子どもたちが今後のことについて切実感や自分の思いをもって考えていくことにつながる。

学習段階については、様々な学習活動が行われていた。現代社会分野の年表にまとめる活動、地理分野の子どもの興味に合わせた選択式の学習活動など、意欲的な実践だった。一方で、成果と課題をみると、検証場面がずれているところがあった。学習段階のそれぞれの場面で検証ができるとよい。

ステップアップ研修全体会・授業力アップ研修全体会

授業づくりや論文作成の楽しさやよさを見いだしたり、積極的に指導者と関わり、会員相互のより強いつながりを形成したりするため、ステップアップ研修を行いました。コロナ禍の中でも、受講者と指導者が共に学ぶことができるように、年間を通して、オンライン会議システム「Zoom(ズーム)」を用いて、多くの会を開催しました。1月28日(金)には、第3回ステップアップ全体会・授業力アップ研修全体会を行いました。本研修会では、以下の8名の先生方に、テーマや手立て、実践の様子を紹介していただきました。発表者の先生を基に、ブレイクアウトルーム機能を使って、小グループに分けて、温かい雰囲気の中、意見交換をしました。

| | |
|--------------|--|
| 平針南小 大橋 雄太先生 | 主体的に学び続けることのできる子どもが育つ社会科学習 ～「一人の学び」と「友達との学び」の循環を生む手立てを工夫して～ |
| 野並小 栗本 一輝先生 | 未来に向かって進んで努力する野並っ子 -社会とつながるプロジェクト型学習教科型2年目の挑戦- |
| 陽明小 大口 諒先生 | 子どもの「やってみよう」を形に！ -子どもの主体性を育む社会科の授業を目指して- |
| 北一社小 勝田 洋光先生 | 社会の課題へのよりよい解決方法を考える子どもが育つ社会科学習 |
| 陽明小 牧 はるか先生 | 「B君、C君と一緒に観光地調べますよ」 ～興味の幅を広げ、「やりたい」「知りたい」と主体的に学ぶ姿を目指して～ |
| 天子田小 永瀬 智仁先生 | 持続可能な視点で社会の在り方を考える児童が育つ社会科学習 |
| 楠小 渡邊 丈芳先生 | 「味鉢芋をこれからも守っていきたい」 -意欲的に学習に取り組む児童の育成- |
| 宮中 児玉 和優先生 | 地域の魅力を発見し、発信できる生徒の育成 -『あつた人』を育てるプロジェクト型学習を通して- |

授業づくり講座

第3回 授業づくり講座 1月25日(火) Zoom 開催

「すぐに使える」「実際の授業をイメージできる」などの授業づくりのポイントを学ぶ「第3回授業づくり講座」が開催されました。第2回までの授業づくり講座に続き、第3回も新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の観点から、1月25日(火)に、Zoomで開催し、たくさんの先生方にご参加いただきました。



実際の授業づくり講座の様子

また、第3回授業づくり講座では、小学校・中学校の校種を越え、全員で一つの講座を受講し、共に学び合う機会となりました。

講師 鳴子小 南 勇希先生

テーマ 「社会科授業のいろは」

社会科を学ぶ目的や授業の基本的な流れ、授業ですぐに活用できる小ネタについて、具体的な事例を通してご紹介いただきました。また、社会科の授業で「こんなことをやっていませんか。」と日頃の授業で陥りがちな事例も教えていただき、授業への心構えについて学ばせていただきました。

他にも、時間の活用や論文への取り組み方など教員として南先生が心掛け、私たちも意識するとよいことについても教えていただきました。



社会科授業のいろは

- い 社会科の目的
- ろ 基本的な流れ
- は 社会科の小ネタ

5年「これからの食料生産とわたしたち」 まとめる

- ① これまでの学習を振り返る
- ② 学習問題にせまるテーマで話し合う
これからの食料生産をどのように進めていくとよいか
- ③ 学習問題についての考えをまとめる

日本の食料生産にはどのような課題があり、これからの食料生産をどのように進めたらよいでしょうか。 **あなたの考えは？**

今年度の授業づくり講座では、社会科の授業づくりに役立つノウハウを学ぶことで、若手会員を中心とした会員の皆様の授業力向上を目指しました。そのために、小学校と中学校の実情に合わせた内容の講座を企画したり、参加者同士が講師の先生を交え、日頃の悩みを相談し合ったりすることができるような会になるようにしました。

次年度も、同好会会員の皆様が知りたいことや必要としていることなどを学ぶことができる機会となるようにしていきます。また、同好会に所属していなくても社会科の授業力向上に関心がある教員が参加できるようにすることで、ますます社会科同好会の活性化を図ることができる講座として、引き続き計画していきます。次年度もぜひご参加ください。

日々雑感

八事小学校 教頭 古橋 大悟 先生

「大人であっても、好奇心旺盛でありたい」常々思っていることです。子どもを相手にする私たちは、特にそうでありたい、と思います。

「仕事」のことや「社会科」のことで、好奇心旺盛であれば、それに越したことはないのですが、私自身、なかなかそんなことは言い切れないのが実際のところでは。

べつに「仕事」や「社会科」のことでなくてもいいのです。

私がとてもお世話になっている社会科の先輩からいただく年賀状は、毎年毎年、釣りの写真が載せてあります。ブラックバスだの、海の魚だの…。

「この人、本当に釣りが好きなんだなあ」と思うのと同時に、「好きなことに一生懸命なのって、とてもすてきなことだなあ」と、とてもうらやましく思いますし、憧れます。

私自身も、自動車、オートバイ、ランタン、ギター、レザークラフト…好きなものは、あげればきりがありません。最近は、自転車にはまっています。これからも、新たにはまるものが出てくるでしょう。そのたびに、自分の世界が広がります。どれも「好き」程度のものですが、仕事で疲れた体や頭をリフレッシュするのに、私にとってとても大切なものです。

私たちは、常に子どもと向き合って仕事をしています。その向こうには保護者の方もいます。ゆえに、気疲れが絶えないはず。そんな時、少しでもリフレッシュできる方法を自分なりにもっていると、余裕をもって子どもたちに接することができるでしょうし、日々の生活もなんとか乗り越えられるはず。です。

忙しい時こそ、「好きなこと」や「新しいこと」に目を向けてみませんか…

～お知らせ～

名古屋市社会科同好会のホームページも是非ご覧ください！
同好会ひろばをカラーでご覧いただくことができます。
また過去のひろばもご覧いただくことができます。

右のQRコードを読み取っていただくか、
「名古屋市社会科同好会」と検索してください。

